

体育科

1 昨年度の授業改善プランの検証 【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

- 全学年において、学習資料や学習カードを工夫することで、運動の行い方を知ったり、技能のポイントを理解したりすることができた。また、身に付けた知識や技能を次時に生かしていけるような振り返りをする中で、学習内容の理解を深められた。
- 自己の課題を解決するために、課題解決の場を提示したが、適した場を選ぶことができていないことが多かった。知識は身に付いているが、運動技能が伴っていない児童が多かったため、今後は知識と技能を共に高めていくことが求められる。

思考力・判断力・表現力等

- 身体能力を向上させるための手立てとして、協働的学習を盛り込んだペアやグループによる学び合いの場を様々な運動領域において設定した。また、ICT 機器を活用したアプリケーション(以下 ICT と記す。)で動きを撮影したり、資料を確認したりして、互いに動きや技のポイントを伝え合うことで、思考する力が高まった。
- ペアやグループで学習することで、お互いの動きを見合ったり、アドバイスをしたりすることはできたが、相互に教え合うのではなく、一方的に教えるなど、全児童が自分の考えたことを表現する力が身に付いたとは言えない。今後、ペアやグループ学習の行い方を発達の段階に応じて検討する必要がある。

主体的に学習に取り組む態度

- 粘り強く学習に取り組めるように学習過程を工夫し、PDCA サイクルを中心にした授業を行うことができた。
- 体育学習を通して、児童が運動に肯定的な態度をもっていない児童がいたこともアンケート結果から分かった。そのため、体育学習に意欲的に取り組めるような手立てが必要になる。

2 授業改善の骨子

- (1) 身体能力を向上させるために、様々な運動に活用できる動きを数多く経験させ、運動の特性に応じた基本的な知識や技能を身に付けるようにする。また、運動量の確保を行い、「できる」と感じられる経験を積み重ねる。 【知識・技能（運動）】
- (2) 自己やチームの学習課題を把握させながら運動に取り組ませたり、動きや技のポイントを的確に捉えさせたりするために、ペアやグループによる学び合いを充実する。 【思考力・判断力・表現力等】
- (3) 自分の体や心の状態に関心をもたせるだけでなく、実感を伴わせる授業を展開することによって、学習課題の解決方法に気付くことができるようにする。

【主体的に学習に取り組む態度】

体育科

プラン①

自己の学習課題を解決するために、様々な運動の場を設定し、一人ひとりが課題に適した場を選べる授業展開にする。

- ◎身体能力を向上させるために、学年の実態に合わせてバリエーションやルールを工夫し、年間を通し、授業の始め5分間程度『田小体操』を行う。(コーディネーショントレーニングを盛り込み、体幹系、神経系の向上をねらう。)
- ◎運動の知識だけでなく、技能を向上させるために、学習資料や学習カードを工夫することで動きや技のポイントを具体的に示したり、課題解決できるような場を設けたりして、様々な動きを数多く経験させる。
- ◎身に付けた知識や技能を今後につなげていくことができるように、1単位時間ごとに振り返りの時間を十分に確保し、次時以降において具体的に生かす場面を考えられるようにする。

低学年

- ・体の動かし方や、用具を用いた運動の仕方を数多く提示し、経験させることによって、運動に対する意欲や技能を向上する。
- ・自己の学習課題に適した運動の場を選ぶことができるように、遊びの場を複数用意する。
- ・必要に応じて、活用場面を明確に決め、技や動きのポイントを確かめたり、自分や友達の運動の仕方を詳しく観察したりするために ICT を活用する。
- ・動きの幅を広げるために、ペア、グループによる学び合いの場を多く設定する。
- ・身に付けた知識や技能を今後につなげていくことができるように、学習カードにポイントやこつを記録する。また、次時に向けて取り組みたいことなどを具体的に記入する。

中学年

- ・各領域で、個々の運動に類似の動きを数多く提示し、経験させることによって、運動に対する意欲や技能を向上させる。
- ・自己の学習課題に適した運動の場を選ぶことができるように、運動の場を複数用意する。
- ・必要に応じて、活用場面を明確に決め、技や動きのポイントを確かめたり、自分や友達の運動の仕方を詳しく観察したりするために ICT を活用させる。
- ・運動技能を向上させるために、動きや技のポイントを教師が具体的に示す。また、それらを児童が考えたこつと関連付けさせるために、全体やペア、グループによる学び合いの場を設定する。その際、互いに見合う視点や立ち位置を明確にしたり、安全に十分留意して補助の役割を担わせたりすることで、意識的に友達の動きを見るようにさせる。
- ・身に付けた知識や技能を今後につなげていくことができるように、学習カードにポイントやこつを記録させる。また、次時に向けて取り組みたいことなどを具体的に記入させる。
- ・1日の生活の仕方や環境を見直し、学習カードに運動、食事、休養及び睡眠ができているのか記録させる。健康の保持増進を目標に取り組みたいことを記入させる。

高学年

- ・各領域で、個々の運動に関連した動きや技を数多く提示し、経験させることによって、運動に対する意欲や技能を向上する。
- ・方法や効果の分かりやすい練習を複数提示し、自分たちで繰り返し練習できるようにする。
- ・技や動きのポイントを確かめたり、自分や友達の前で運動の仕方を詳しく観察したりするために必要に応じて、ICT を活用する。(写真や動画での撮影記録から確認する。)
- ・運動技能を向上させるために、動きや技のポイントを教師が具体的に示す。また、それらを児童が考えたことと関連付けさせるために、全体やペア、グループによる学び合いの場を設定する。その際、互いに見合う視点や立ち位置を明確にしたり安全に十分留意して補助の役割を担わせたりすることで、友達への具体的なアドバイスやポイントの理解ができるようにする。
- ・身に付けた知識や技能を今後につなげていくことができるように、学習カードにポイントやこつを記録させる。また、次時に向けて取り組みたいことなどを具体的に記入する。
- ・1日の生活の仕方や環境を見直し、健康の保持増進を目標に取り組みたいことを考える。また、心と体の関係を知り、不安や悩みのあることや、けがの防止や病気の予防に必要なことをまとめ、日常生活においてどう過ごしていくかを考えられるように授業を展開していく。

プラン②

体育科

自己の学習課題を解決するために、ペア、グループ学習の行い方を工夫し、全員が高め合える学び合いにする。

- ◎学習資料や学習カード、ICT 機器を活用し、自分やグループの学習課題（単元、領域によって作戦も含まれる）やめあてを明確にして運動に取り組んだり、一人一人が友達に「見てほしい」「伝えたい」視点をもって学び合いに臨んだりできるようにする。
- ◎写真やイラストを取り入れることで分かりやすい学習資料を工夫したり、自分やグループの学習課題に応じた練習の方法を選べる機会を設定したりすることでペアやグループでの学び合いを充実させる。

低学年

- ・ 動きや技のポイントを捉えるために、学習資料や学習カードを工夫する。
- ・ 自分が考えたことを友達に伝えることができるように、ペアやグループで動きや技を見る視点を明確に与えて運動に取り組めるようにする。
- ・ 児童から出た運動のこつを全体で共有する。
- ・ 段階的に達成できるようなめあてが立てられるように、学習カードを工夫する。
- ・ 学習のめあてに沿った振り返りをする。
- ・ 運動の特性や児童の実態に応じて段階的な練習の場を用意し、ペアやグループごとに、簡単な練習に取り組めるようにする。

中学年

- ・ 動きや技のポイントを互いに見合い、学び合いができるように、ICT や学習資料、学習カードを活用させる。
- ・ 友達からのアドバイスを通して運動技能を向上させることができるよう、相手に「見てほしい」「伝えたい」視点を伝えてから運動に取り組めるようにする。
- ・ 児童から出た運動のこつを全体で共有する。
- ・ 動きや技のポイントに沿って互いに運動技能を向上させることができるようにする。
- ・ 自分の課題を捉え、段階的に達成できるようなめあてが立てられるように、学習カードを工夫する。
- ・ 自己学習課題に沿った振り返りをする。
- ・ 運動の特性や児童の実態に応じて段階的な練習の場を複数用意し、ペアやグループごとに、自己の学習課題に合った練習に取り組めるようにする。

高学年

- ・ 動きや技のポイントを互いに見合い、具体的なアドバイスができるように ICT や学習資料、学習カード、を活用させる。
- ・ 正しい運動方法や技の完成例等と見比べ、めあてや課題に即したアドバイスができるよう、自分が「見てほしい」「伝えたい」視点を伝えた上で運動に取り組めるようにする。
- ・ 児童から出た運動のこつを全体で共有する。
- ・ 動きや技のポイントを意識し、段階的に達成できるようなめあてが立てられるように、学習カードを工夫する。
- ・ 自己学習課題に沿った振り返りをする。
- ・ 運動の特性や児童の実態に応じて段階的な練習の場を複数用意し、ペアやグループごとに、自己の課題に合った練習方法や場を自ら選択させ、取り組ませる。

体育科

(保健領域)

プラン③

自己の生活を振り返ることで、運動や健康に関して意欲を高められるような授業内容を設定する。

- ◎児童の理解を深めさせるために、体験的活動を取り入れたり、自分の生活を ICT やワークシートに表現して可視化したりする。
- ◎専門的な知識をもとに助言や質疑応答ができるように、年1回以上、養護教諭・栄養教諭と連携したり、外部人材をゲストティーチャーとして招いたりして授業を行う。

中学年

- ・ 「健康な生活」では、食事、運動、睡眠のバランスが大切なことを理解させるために、ICT やワークシートで1日の生活表を作成させ、自分の生活習慣に関する課題に気付けるようにする。
- ・ 「健康な生活」では、「早寝、早起き、朝ご飯月間」で行うチェックシートの取組を基に、自分の生活習慣に関する課題を振り返り、事後の生活に生かせるようにする。
- ・ 「健康な生活」では、生活環境を整えるためのいろいろな方法を考えるために、給食残菜チェックシートなどを活用したり、発表し合ったりと、考えを共有する時間を設定したりする。
- ・ 「体の発育・発達」では、体の中で起きている変化について理解させるために、養護教諭とともに成長過程のグラフや資料を活用して、一人一人の具体的な数値などを示しながら指導する。

高学年

- ・ 「心の健康」では、不安や悩みなどから病気になることもあることを理解させるために、これまでの経験から自分の体に起こった具体例を考える等、実感を伴う活動を取り入れながら指導する。また、不安や悩みなどに対する自分の対処法について ICT やワークシートにまとめ、共有し合うことで事後の生活に生かせるようにする。
- ・ 「けがの防止」では、校庭や校舎内を歩いたり、保健室にある記録を見たりして、身の回りで実際にけがが多い場所を調べ、具体的な防止策を考える。
- ・ 「病気の予防」では、病気の原因に「病原体」、「環境」、「生活の仕方」などが関わり合っていることを理解させるために、これまでの経験や資料等を基に原因を分類・整理させ、関連を実感できるようにする。
- ・ 「病気の予防」では、「薬物乱用防止教室（セーフティ教室）」の機会を活用し、社会における薬物乱用の実際や、薬物乱用の害について具体的に考えたり、知識を身に付けたりすることができるようにする。